

解答例

設問 1 「高齢社会対策大綱」の改定は令和6年で何回目か答えなさい。(5点)

2回目(1回目は平成30年)

設問 2 「高齢社会対策大綱」の策定背景には、我が国の高齢化の急速な進展があります。これにより生じる社会的課題を2つ挙げ、それぞれについて簡潔に説明しなさい。(30点)

高齢者の社会的孤立

高齢化により一人暮らしの高齢者が増加し、地域とのつながりが希薄になることで孤立が深刻化している。孤立は健康悪化や認知症の進行にもつながるため、地域での見守りや交流の場の整備が求められる。

医療費の増加

高齢者は慢性疾患を抱えることが多く、医療機関の利用頻度が高いため、国民医療費が増加している。これにより、医療制度の持続可能性が課題となっており、予防医療や地域包括ケアの推進が必要とされている。

介護負担の増加

高齢者の増加により、家族や介護職員の負担が大きくなっている。特に介護離職や介護疲れが社会問題となっており、介護サービスの充実と支援体制の強化が求められている。

介護人材の不足とケアの質の低下

高齢者の増加により介護職の需要が高まっているが、人材確保が困難であり、ケアの質や継続性に課題が生じている。

労働力人口の減少

高齢化により生産年齢人口が減少し、労働力不足が深刻化している。これにより、経済活動の停滞や社会保障制度の維持が困難になる可能性があり、高齢者の就業支援や定年延長などの対策が進められている。

地域での支え合いの必要性

高齢者が安心して暮らすためには、地域での見守りや交流が不可欠である。多世代が共に暮らすまちづくりや、地域包括ケアシステムの推進が重要な課題となっている。

設問 3 令和6年に改定された「高齢社会対策大綱」において、認知症対策の強化の根拠法を答えなさい。(5点)

令和6年改定では「認知症基本法」の施行を踏まえた施策強化が盛り込まれた。

設問 4 令和6年に改訂された「高齢社会対策大綱」における認知症施策では、「認知症になっても希望を持って自分らしく暮らし続けられる社会」の実現を目指しています。この理念に基づき、看護師が地域包括ケアシステムの中で果たすべき役割及びあなたの考えを400字以内で述べなさい。(60点)

認知症施策において、看護師は地域包括ケアの中核として認知症の人とその家族を支える重要な役割を担っている。まず、認知症の早期発見に向けて、日常的な観察や健康相談を通じて異変に気づき、医師や専門職と連携することが求められる。次に、本人の意思を尊重しながら、地域での自立した生活を支える生活の質を維持する支援する役割がある。また、家族に対する介護指導や負担の軽減、心理的支援を行い、家族が継続的に介護できるよう支える役割が求められる。地域の認知症カフェや相談窓口での活動を通じて、孤立の防止にも寄与することが期待されおり、看護師は医療・福祉・地域をつなぐ役割を担う、必要不可欠な存在であると考えている。